

60人が参加した。訓練は3台の排水ポンプ
らない。常に備えを万全に
しておきたい」と話した。

釣果競い交流深める

内海漁場利用協が初大会

小豆島

小豆島近海で釣りを楽しむ愛好家らでつくる内海地区漁場利用協定協議会（UFC）は28日、会員同士の交流を深めるイベントとして、初めて釣り大会を開催。県内外から約100人が集

い、和やかな雰囲気の中で釣果を競った。

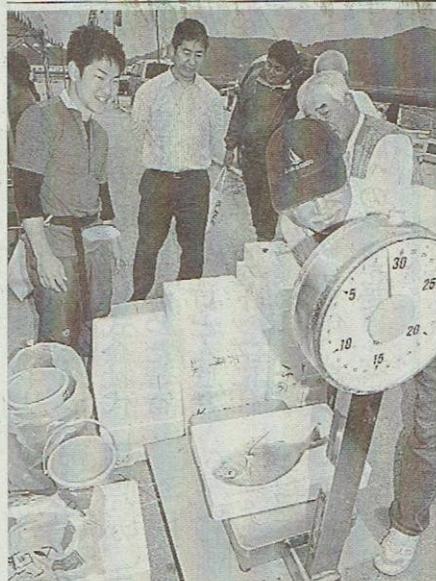
大会はキス、マガイ、その他の魚の3部門で行い、規定の大きさ以上の総重量で順位を決めた。参加者は早朝から小豆島の沖台で釣

り糸を垂らし、午前11時ごろに小豆島町の苗羽港に戻って釣魚の検量を受けた。ずらりと並んだ魚を前に、参加者は「大きいなあ」などと互いの健闘をたたえながら会話を弾ませた。

この日は昨秋に続いて2回目となる稚魚の放流も実施。今回は会員が出し合った稚魚の購入資金から150万円を充て、タイ1万匹、

ヒラメ3500匹、タケノコメバル1500匹を海に放った。

UFCは同町内海地区を訪れる釣り愛好家と漁業者が協力し、豊かな漁場をつくるために活動。内海漁協と県内外の遊漁者団体が昨年7月に協定を締結して以降、会員は徐々に増え、現在は600人に迫っているという。



釣り上げた魚の検量を受ける
参加者—小豆島町苗羽